

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
人間の尊厳と自立	( 講義 ) ・ ( 演習 ) ・ 実習 )		越田 裕亮
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1年 前期	必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応力の基礎を養う学習とする。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b>			
人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。			
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>			
○人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護について自分なりの考え方を整理し、説明できるようになる。 ○人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解し、説明できるようになる。			
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>			
コマ数	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体①	
3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体②	
4	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想の潮流とその具現化	
5	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権や尊厳に関する日本の諸規定	
6	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①	
7	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②	
8	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護①	
9	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護②	
10	自立のあり方	自立の概念の多様性①	
11	自立のあり方	自立の概念の多様性②	
12	自立のあり方	自立とは	
13	自立のあり方	介護を必要とする人々の自立と自立支援	
14	自立のあり方	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性	
15	まとめ・定期試験		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 「人間の理解」(中央法規)、作成したプリント)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

# 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) <b>人間関係と コミュニケーション</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> ・ <b>演習</b> ・ <b>実習</b> )		授業担当者 沖野 麻美		
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 ・ 前期	必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得するための学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解することを目的とする。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○人間と人間関係について理解できる ○対人関係におけるコミュニケーションについて理解できる ○対人援助関係とコミュニケーションについて理解できる ○組織におけるコミュニケーションについて理解できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <b>コマ数</b>                              1. ガイダンス 人間らしさのはじまり                              2. 自分と他者の理解                              3. 発達心理学からみた人間関係                              4. 発達心理学からみた人間関係                              5. 社会心理学からみた人間関係                              6. 人間関係とストレス                              7. コミュニケーションの概念・基本構造                              8. コミュニケーションの手段                              9. 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション                              10. 対人援助における基本的態度                              11. 対人援助における基本的態度                              12. 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則                              13. 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則                              14. 組織におけるコミュニケーション                              15. まとめ・試験                         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding-left: 20px;">                             【関連ワード】                              人類の進化                              自己覚知、他者理解、ジョハリの窓、自己開示                              発達段階、エリクソンの発達段階説                              認知、認知フィルター                              ストレス、ストレッサー、性格傾向、行動様式                              コミュニケーション、言語的コミュニケーション                              非言語的コミュニケーション                              受容、共感、傾聴、アサーティブ、ノンアサーティブ                              受容、共感、傾聴                              バイステックの7原則                              プレーンストーミング、ティーチング、コーチング                         </td> </tr> </table>				<b>コマ数</b> 1. ガイダンス 人間らしさのはじまり 2. 自分と他者の理解 3. 発達心理学からみた人間関係 4. 発達心理学からみた人間関係 5. 社会心理学からみた人間関係 6. 人間関係とストレス 7. コミュニケーションの概念・基本構造 8. コミュニケーションの手段 9. 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション 10. 対人援助における基本的態度 11. 対人援助における基本的態度 12. 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則 13. 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則 14. 組織におけるコミュニケーション 15. まとめ・試験	【関連ワード】 人類の進化 自己覚知、他者理解、ジョハリの窓、自己開示 発達段階、エリクソンの発達段階説 認知、認知フィルター ストレス、ストレッサー、性格傾向、行動様式 コミュニケーション、言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション 受容、共感、傾聴、アサーティブ、ノンアサーティブ 受容、共感、傾聴 バイステックの7原則 プレーンストーミング、ティーチング、コーチング
<b>コマ数</b> 1. ガイダンス 人間らしさのはじまり 2. 自分と他者の理解 3. 発達心理学からみた人間関係 4. 発達心理学からみた人間関係 5. 社会心理学からみた人間関係 6. 人間関係とストレス 7. コミュニケーションの概念・基本構造 8. コミュニケーションの手段 9. 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション 10. 対人援助における基本的態度 11. 対人援助における基本的態度 12. 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則 13. 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則 14. 組織におけるコミュニケーション 15. まとめ・試験	【関連ワード】 人類の進化 自己覚知、他者理解、ジョハリの窓、自己開示 発達段階、エリクソンの発達段階説 認知、認知フィルター ストレス、ストレッサー、性格傾向、行動様式 コミュニケーション、言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション 受容、共感、傾聴、アサーティブ、ノンアサーティブ 受容、共感、傾聴 バイステックの7原則 プレーンストーミング、ティーチング、コーチング				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版  「人間の理解」		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)			

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解A	授業の種類 ( <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者 静間 宏治
授業の回数 15	時間数（単位数） 30 (2)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 <u>必修</u>
[授業の目的・ねらい] 個人が自立した生活を営むということを理解し、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養いつつ、人間の生活と社会の関わり、自助から公助に至る過程等について学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 個人の「生」や「死」をなぜ社会で支援するのか。介護保険をはじめとした社会保障制度や社会と生活のしくみを学ぶことによって社会と個人の間を関係を理解する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○生活と社会のしくみが理解できる。 ○社会保障制度が理解できる。 ○地域共生社会の考え方が理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 生活の幅のとらえ方 2 生活の基本機能 3 ライフスタイルの変化 4 家族の機能と役割 5 社会・組織の機能と役割 6 地域・地域社会のとらえ方と生活支援 7 地域福祉の発展 8 地域共生社会とは 9 地域包括ケア 10 社会保障の基本的な考え方 11 日本の社会保障制度の発達 12 日本の社会保障制度のしくみ ①（体系、実施体制） 13 日本の社会保障制度のしくみ ②（年金保険、医療保険、雇用保険等） 14 現代社会と社会保障制度 15 試験			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 社会の理解		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題・授業態度等を加味し、総合評価する。 (基準: 60点以上を合格)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
社会の理解B	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		静間 宏治
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15	30（2）	2年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高齢者保健福祉と介護保険制度、並びに障害者保健福祉と障害者総合支援制度を理解し、介護・支援の必要な人々の生活援助の方法、その基礎となる法制度を学ぶ。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な視点から基礎的知識を習得する。また、個人情報保護や生活困窮者支援などの基礎を学ぶ。</p>			
<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護保険制度について理解できる。</li> <li>○障害者総合支援制度について理解できる。</li> <li>○介護実践に関連する諸制度について理解できる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者保健福祉の動向</li> <li>2 高齢者保健福祉に関連する法体系</li> <li>3 介護保険制度のしくみ ①</li> <li>4 介護保険制度のしくみ ②</li> <li>5 介護保険制度の動向</li> <li>6 障害者保健福祉の動向</li> <li>7 障害者保健福祉に関連する法体系</li> <li>8 障害者総合支援制度 ①</li> <li>9 障害者総合支援制度 ②</li> <li>10 障害者総合支援制度 ③</li> <li>11 個人の権利を守る制度・施策</li> <li>12 保健医療に関する制度・施策</li> <li>13 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策</li> <li>14 地域生活を支援する制度・施策</li> <li>15 試験</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>中央法規出版 社会の理解</p>		<p>試験成績・課題、授業態度等を加味し総合評価する。 (基準:60点以上を合格)</p>	

## 授 業 概 要

レクリエーション活動援助法	授業の種類 ( 講義 ) ・ ( 演習 ) ・ ( 実技 )		授業担当者 猿田 重昭																																																												
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 選 択																																																												
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションを通して、「楽しい」を実感し、介護福祉士としての資質を高め、意欲を高揚させる。</li> <li>2. レクリエーション活動を通して、コミュニケーション・ワークを体験し、広く、人間関係力を身につけさせる。</li> <li>3. レクリエーションの種々の素材・アクティビティを体験し、介護福祉士としてのレク援助技術を身につけさせる。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義=レクリエーションとは、レクの意義。介護福祉におけるレクの実際。コミュニケーション・ワークの意義。</li> <li>2. 演習=レク・プログラムの企画・運営。対象に合わせたレク・ワーク。安全管理の方法。</li> <li>3. 実技=アイスブレイキング、ホスピタリティの実際。レク・スポーツ、GSDの体験。レク素材提供の技術の取得。</li> </ol> <p>[授業終了時の到達課題](到達目標) レクリエーションの意義・大切さを体得し、介護福祉士としての資質が高められ、より多くの人々に、生きがいを提供することのできる人格の形成を目標とする。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 35%;">「介護福祉とレクリエーション」</td> <td style="width: 40%;">講義=オリエンテーション。レクリエーションの意義。介護福祉とレク。 実技=介護に役立つGSDの体験。安全管理の方法。</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「アイスブレイキングの実際」</td> <td>講義=初対面の人々とのコミュニケーション。アイスブレイキングの効果。 実技=アイスブレイキング素材の体験。留意点の確認。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「室内レク・スポーツの体験」(I)</td> <td>演習=室内レク・スポーツを体験し、介護予防に役立つことを学ぶ。 講義=安全管理。施設内での扱いの留意点など。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「室内レク・スポーツの体験」(II)</td> <td>演習=室内レク・スポーツを体験し、介護予防に役立つことを学ぶ。 講義=安全管理。施設内での扱いの留意点など。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「コミュニケーション・ワーク」(I)</td> <td>講義=「コミュニケーション」言語・非言語、傾聴等を学習する。 実技=上記の内容を、具体的な実技を伴いながら体験する。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「コミュニケーション・ワーク」(II)</td> <td>講義=「日誌・報告書の書き方」表記法の会得。 実技=用語の使い方、適切な用語の選択を学習する。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「コミュニケーション・ワーク」(III)</td> <td>講義=「日誌・報告書の書き方」表記法の会得。 実技=敬語の区別、使い方、滑舌の実際を学習する。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「コミュニケーション・ワーク」(IV)</td> <td>講義=レク支援としてのホスピタリティを学習する。 実技=レク支援としてのホスピタリティを体験する。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>「コミュニケーション・ワーク」(V)</td> <td>講義=レク素材アクティビティの選択法。効果的な活用術。 実技=CSSプロセスの効果的利用法。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「グループワーク・トレーニング」(I)</td> <td>演習=グループ・ワーク・トレーニングの体験。 実技=施設内イベントのポスターづくり。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「グループワーク・トレーニング」(II)</td> <td>演習=グループ・ワークによる、たなばたの飾りつけ。 作成と飾り付けの共同作業。「楽しい」の共有。「夢」を語る。</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「コミュニケーション・ワーク」(VI)</td> <td>講義=種々の対象に合わせたレク素材アクティビティの効果的な活用 実技=利用者の状況を把握</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> </table> <p>術。 するハードル設。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">13</td> <td style="width: 35%;">「介護福祉士の資質とレクリエーション」(I)</td> <td style="width: 40%;">講義=授業のまとめ。介護福祉士としての心構え。 実習=レポート作成・提出</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「介護福祉士の資質とレクリエーション」(II)</td> <td>講義=授業のまとめ。介護福祉士としての心構え。 実習=レポート作成・提出</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>「レクリエーション支援論」</td> <td>講義=年間授業のまとめ。超高齢化社会における介護福祉士の役割。 レクリエーションの意義の再確認。 筆記試験</td> <td style="text-align: center;">☆</td> </tr> </table>				1	「介護福祉とレクリエーション」	講義=オリエンテーション。レクリエーションの意義。介護福祉とレク。 実技=介護に役立つGSDの体験。安全管理の方法。	☆	2	「アイスブレイキングの実際」	講義=初対面の人々とのコミュニケーション。アイスブレイキングの効果。 実技=アイスブレイキング素材の体験。留意点の確認。	☆	3	「室内レク・スポーツの体験」(I)	演習=室内レク・スポーツを体験し、介護予防に役立つことを学ぶ。 講義=安全管理。施設内での扱いの留意点など。	☆	4	「室内レク・スポーツの体験」(II)	演習=室内レク・スポーツを体験し、介護予防に役立つことを学ぶ。 講義=安全管理。施設内での扱いの留意点など。	☆	5	「コミュニケーション・ワーク」(I)	講義=「コミュニケーション」言語・非言語、傾聴等を学習する。 実技=上記の内容を、具体的な実技を伴いながら体験する。	☆	6	「コミュニケーション・ワーク」(II)	講義=「日誌・報告書の書き方」表記法の会得。 実技=用語の使い方、適切な用語の選択を学習する。	☆	7	「コミュニケーション・ワーク」(III)	講義=「日誌・報告書の書き方」表記法の会得。 実技=敬語の区別、使い方、滑舌の実際を学習する。	☆	8	「コミュニケーション・ワーク」(IV)	講義=レク支援としてのホスピタリティを学習する。 実技=レク支援としてのホスピタリティを体験する。	☆	9	「コミュニケーション・ワーク」(V)	講義=レク素材アクティビティの選択法。効果的な活用術。 実技=CSSプロセスの効果的利用法。	☆	10	「グループワーク・トレーニング」(I)	演習=グループ・ワーク・トレーニングの体験。 実技=施設内イベントのポスターづくり。	☆	11	「グループワーク・トレーニング」(II)	演習=グループ・ワークによる、たなばたの飾りつけ。 作成と飾り付けの共同作業。「楽しい」の共有。「夢」を語る。	☆	12	「コミュニケーション・ワーク」(VI)	講義=種々の対象に合わせたレク素材アクティビティの効果的な活用 実技=利用者の状況を把握	☆	13	「介護福祉士の資質とレクリエーション」(I)	講義=授業のまとめ。介護福祉士としての心構え。 実習=レポート作成・提出	☆	14	「介護福祉士の資質とレクリエーション」(II)	講義=授業のまとめ。介護福祉士としての心構え。 実習=レポート作成・提出	☆	15	「レクリエーション支援論」	講義=年間授業のまとめ。超高齢化社会における介護福祉士の役割。 レクリエーションの意義の再確認。 筆記試験	☆
1	「介護福祉とレクリエーション」	講義=オリエンテーション。レクリエーションの意義。介護福祉とレク。 実技=介護に役立つGSDの体験。安全管理の方法。	☆																																																												
2	「アイスブレイキングの実際」	講義=初対面の人々とのコミュニケーション。アイスブレイキングの効果。 実技=アイスブレイキング素材の体験。留意点の確認。	☆																																																												
3	「室内レク・スポーツの体験」(I)	演習=室内レク・スポーツを体験し、介護予防に役立つことを学ぶ。 講義=安全管理。施設内での扱いの留意点など。	☆																																																												
4	「室内レク・スポーツの体験」(II)	演習=室内レク・スポーツを体験し、介護予防に役立つことを学ぶ。 講義=安全管理。施設内での扱いの留意点など。	☆																																																												
5	「コミュニケーション・ワーク」(I)	講義=「コミュニケーション」言語・非言語、傾聴等を学習する。 実技=上記の内容を、具体的な実技を伴いながら体験する。	☆																																																												
6	「コミュニケーション・ワーク」(II)	講義=「日誌・報告書の書き方」表記法の会得。 実技=用語の使い方、適切な用語の選択を学習する。	☆																																																												
7	「コミュニケーション・ワーク」(III)	講義=「日誌・報告書の書き方」表記法の会得。 実技=敬語の区別、使い方、滑舌の実際を学習する。	☆																																																												
8	「コミュニケーション・ワーク」(IV)	講義=レク支援としてのホスピタリティを学習する。 実技=レク支援としてのホスピタリティを体験する。	☆																																																												
9	「コミュニケーション・ワーク」(V)	講義=レク素材アクティビティの選択法。効果的な活用術。 実技=CSSプロセスの効果的利用法。	☆																																																												
10	「グループワーク・トレーニング」(I)	演習=グループ・ワーク・トレーニングの体験。 実技=施設内イベントのポスターづくり。	☆																																																												
11	「グループワーク・トレーニング」(II)	演習=グループ・ワークによる、たなばたの飾りつけ。 作成と飾り付けの共同作業。「楽しい」の共有。「夢」を語る。	☆																																																												
12	「コミュニケーション・ワーク」(VI)	講義=種々の対象に合わせたレク素材アクティビティの効果的な活用 実技=利用者の状況を把握	☆																																																												
13	「介護福祉士の資質とレクリエーション」(I)	講義=授業のまとめ。介護福祉士としての心構え。 実習=レポート作成・提出	☆																																																												
14	「介護福祉士の資質とレクリエーション」(II)	講義=授業のまとめ。介護福祉士としての心構え。 実習=レポート作成・提出	☆																																																												
15	「レクリエーション支援論」	講義=年間授業のまとめ。超高齢化社会における介護福祉士の役割。 レクリエーションの意義の再確認。 筆記試験	☆																																																												
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]																																																													
<p>「楽しさをとおした心の元気づくり」 (公財)日本レクリエーション協会編</p> <p>上記のほか 授業担当者の作成する資料</p>		<p>筆記試験の成績・提出させた課題の評価、及び意欲的な取り組み 出席要件等を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格)</p>																																																													

## 授 業 概 要

介護現場に役立つ 日誌・報告書の書き方	授業の種類 <p style="text-align: center;">( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )</p>		授業担当者 <p style="text-align: center;">猿田 重昭</p>																																																												
授業の回数 <p style="text-align: center;">15</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">30(2)</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">1年・後期</p>	必修・選択 <p style="text-align: center;">選 択</p>																																																												
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実習や、就職後の介護現場における日誌や報告書の書き方を習得させ、介護者としての人間形成を育む。</li> <li>2. 表記法の基礎を学び、豊かな言語生活を送るとともに、介護現場の実践に役立たせる。</li> <li>3. 滑舌、発声などの基礎を体得したり、報告の模擬体験をすることで、介護現場での事例発表や提案に慣れさせる。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義=表記法(用語・用字、一文一事、5W1H、敬語、主述関係、文末の統一、修正方法)など。</li> <li>2. 演習=上記の講義をもとにして、実際に日誌・報告書のスキルを重ねる。毎回授業終了時に課題提出。</li> <li>3. 演習=報告の仕方(滑舌・発声・早口ことばの基礎訓練など)、事例発表の練習。</li> </ol> <p>[授業終了時の到達課題](到達目標)</p> <p>書くことへの苦手意識を払拭し、分かりやすく、より正確に日誌・報告書が書けるようになり、介護士としての支援活動に役立たせる。豊かな言語生活を通して、介護士としての人間形成を養い、優しく、温かな人間性を構築する。</p>																																																															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td style="padding-left: 10px;">基礎編: 日誌・報告書の必要性。何のために書くのか。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: よりよい日誌・報告書を書くために I 自己紹介。日誌の各項目について。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>基礎編: 表記法 I 「話しことばと書きことば。表記上の常識。」 「敬語」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 読みやすい文章とは。優れた文章を読む。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>基礎編: 表記法 II 「より伝わりやすい表記法」 「である調とです・ます調」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 報告の仕方 「滑舌、礼、視線、早さ、大きさ」など。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>基礎編: 表記法 III 「適切な漢字表記」「漢字とひらがな・カタカナの使い分け」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 実習報告をする I 報告書の基礎。何を書くか。報告会で、何をどう伝えるか。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>基礎編: 表記法 IV 「文を短く」「一文一事」「句読点の使い方」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 実習報告をする II 報告会での発表の仕方。姿勢。声の大小。視線。である調からです・ます調へ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>基礎編: 表記法 V 「ら拭きことば」「会話体から文体へ」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 実習報告会を終えて実習報告会の反省をする。お互いに評価しあう。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>基礎編: 表記法 VI 「主語、述語の二重表現を避ける」「が」と「は」の違い。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 I 「日誌の基礎」「何のために日誌を書くのか」「日記と日誌の違い」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>基礎編: 表記法 VII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「文を短く」「一文一事」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 II 「記録欄の書き方」「事実の記述と感想の記述の混同」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td>基礎編: 表記法 VIII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「係り受けの関係」「主語と述語の一体」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 III 「目標・考察欄の書き方」「学んだこと、分かったことをどこに、どのように書くか」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>基礎編: 表記法 IX 「読み手にとって分かりやすい文とは」「5W1H」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 IV 「目標についての自己評価欄と感想・反省欄」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td>基礎編: 表記法 X 「読み手にとって分かりやすい文とは」「主題を冒頭に」「文末の強調」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 V 「感想欄と反省欄の違い」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td>基礎編: 表記法 XI 「読み手にとって分かりやすい文とは」「流行語の功罪、省略体」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 VI 「感想欄と反省欄の書き方の再確認」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td>基礎編: 表記法 XII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「あいまいな表現」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 VII 「改めて日誌の目的を考える」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">14</td> <td>基礎編: 表記法 XIII 「まとめ」 I 「デジタルとアナログの効果的な使い分け」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 VIII 「まとめ」 I 「利用者さんに寄り添うとは」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td>基礎編: 表記法 XIV 「まとめ」 II 「表記法の添う復習」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">☆</td> <td>応用編: 日誌の書き方 IX 「まとめ」 II 「日誌・記録という名の自分史」</td> </tr> </table>				1	基礎編: 日誌・報告書の必要性。何のために書くのか。	☆	応用編: よりよい日誌・報告書を書くために I 自己紹介。日誌の各項目について。	2	基礎編: 表記法 I 「話しことばと書きことば。表記上の常識。」 「敬語」	☆	応用編: 読みやすい文章とは。優れた文章を読む。	3	基礎編: 表記法 II 「より伝わりやすい表記法」 「である調とです・ます調」	☆	応用編: 報告の仕方 「滑舌、礼、視線、早さ、大きさ」など。	4	基礎編: 表記法 III 「適切な漢字表記」「漢字とひらがな・カタカナの使い分け」	☆	応用編: 実習報告をする I 報告書の基礎。何を書くか。報告会で、何をどう伝えるか。	5	基礎編: 表記法 IV 「文を短く」「一文一事」「句読点の使い方」	☆	応用編: 実習報告をする II 報告会での発表の仕方。姿勢。声の大小。視線。である調からです・ます調へ。	6	基礎編: 表記法 V 「ら拭きことば」「会話体から文体へ」	☆	応用編: 実習報告会を終えて実習報告会の反省をする。お互いに評価しあう。	7	基礎編: 表記法 VI 「主語、述語の二重表現を避ける」「が」と「は」の違い。	☆	応用編: 日誌の書き方 I 「日誌の基礎」「何のために日誌を書くのか」「日記と日誌の違い」	8	基礎編: 表記法 VII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「文を短く」「一文一事」	☆	応用編: 日誌の書き方 II 「記録欄の書き方」「事実の記述と感想の記述の混同」	9	基礎編: 表記法 VIII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「係り受けの関係」「主語と述語の一体」	☆	応用編: 日誌の書き方 III 「目標・考察欄の書き方」「学んだこと、分かったことをどこに、どのように書くか」	10	基礎編: 表記法 IX 「読み手にとって分かりやすい文とは」「5W1H」	☆	応用編: 日誌の書き方 IV 「目標についての自己評価欄と感想・反省欄」	11	基礎編: 表記法 X 「読み手にとって分かりやすい文とは」「主題を冒頭に」「文末の強調」	☆	応用編: 日誌の書き方 V 「感想欄と反省欄の違い」	12	基礎編: 表記法 XI 「読み手にとって分かりやすい文とは」「流行語の功罪、省略体」	☆	応用編: 日誌の書き方 VI 「感想欄と反省欄の書き方の再確認」	13	基礎編: 表記法 XII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「あいまいな表現」	☆	応用編: 日誌の書き方 VII 「改めて日誌の目的を考える」	14	基礎編: 表記法 XIII 「まとめ」 I 「デジタルとアナログの効果的な使い分け」	☆	応用編: 日誌の書き方 VIII 「まとめ」 I 「利用者さんに寄り添うとは」	15	基礎編: 表記法 XIV 「まとめ」 II 「表記法の添う復習」	☆	応用編: 日誌の書き方 IX 「まとめ」 II 「日誌・記録という名の自分史」
1	基礎編: 日誌・報告書の必要性。何のために書くのか。																																																														
☆	応用編: よりよい日誌・報告書を書くために I 自己紹介。日誌の各項目について。																																																														
2	基礎編: 表記法 I 「話しことばと書きことば。表記上の常識。」 「敬語」																																																														
☆	応用編: 読みやすい文章とは。優れた文章を読む。																																																														
3	基礎編: 表記法 II 「より伝わりやすい表記法」 「である調とです・ます調」																																																														
☆	応用編: 報告の仕方 「滑舌、礼、視線、早さ、大きさ」など。																																																														
4	基礎編: 表記法 III 「適切な漢字表記」「漢字とひらがな・カタカナの使い分け」																																																														
☆	応用編: 実習報告をする I 報告書の基礎。何を書くか。報告会で、何をどう伝えるか。																																																														
5	基礎編: 表記法 IV 「文を短く」「一文一事」「句読点の使い方」																																																														
☆	応用編: 実習報告をする II 報告会での発表の仕方。姿勢。声の大小。視線。である調からです・ます調へ。																																																														
6	基礎編: 表記法 V 「ら拭きことば」「会話体から文体へ」																																																														
☆	応用編: 実習報告会を終えて実習報告会の反省をする。お互いに評価しあう。																																																														
7	基礎編: 表記法 VI 「主語、述語の二重表現を避ける」「が」と「は」の違い。																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 I 「日誌の基礎」「何のために日誌を書くのか」「日記と日誌の違い」																																																														
8	基礎編: 表記法 VII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「文を短く」「一文一事」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 II 「記録欄の書き方」「事実の記述と感想の記述の混同」																																																														
9	基礎編: 表記法 VIII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「係り受けの関係」「主語と述語の一体」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 III 「目標・考察欄の書き方」「学んだこと、分かったことをどこに、どのように書くか」																																																														
10	基礎編: 表記法 IX 「読み手にとって分かりやすい文とは」「5W1H」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 IV 「目標についての自己評価欄と感想・反省欄」																																																														
11	基礎編: 表記法 X 「読み手にとって分かりやすい文とは」「主題を冒頭に」「文末の強調」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 V 「感想欄と反省欄の違い」																																																														
12	基礎編: 表記法 XI 「読み手にとって分かりやすい文とは」「流行語の功罪、省略体」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 VI 「感想欄と反省欄の書き方の再確認」																																																														
13	基礎編: 表記法 XII 「読み手にとって分かりやすい文とは」「あいまいな表現」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 VII 「改めて日誌の目的を考える」																																																														
14	基礎編: 表記法 XIII 「まとめ」 I 「デジタルとアナログの効果的な使い分け」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 VIII 「まとめ」 I 「利用者さんに寄り添うとは」																																																														
15	基礎編: 表記法 XIV 「まとめ」 II 「表記法の添う復習」																																																														
☆	応用編: 日誌の書き方 IX 「まとめ」 II 「日誌・記録という名の自分史」																																																														
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]																																																													
授業担当者の作成する資料		<p>毎回ドリルまたはスキルアップによる課題を提出、及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。筆記試験は行わない。 (基準:60点以上を合格)</p>																																																													

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者 <b>金津 謙</b>
権利擁護 成年後見制度			
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 (2)	2年 前期	選 択
<p>[授業の目的・ねらい]          社会福祉制度は憲法の人権規定を元に制定された法律を根拠としており、憲法の人権規定と社会福祉は密接に関連している。福祉の現場を担当するものとしてそれら法律を「知らなかった」では済まされない。本講においては特に社会福祉と密接した法律問題について検討し、さらなるステップの一助とすることを目的とする。なお、卒業時共通試験の試験対策も行う予定である。法律分野は特に法律用語が難しいので講義を通じて「慣れる」ことも目的としている。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          憲法上保証されている人権規定と、社会福祉関連制度との関わりを通じて、社会福祉制度を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]          1.社会福祉制度と法律の理解する          2.成年後見制度についての習熟          3.介護現場におけるトラブルと法的対処への習熟</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>第1回 法律の全体像</p> <p>第2回 憲法に規定される基本的人権概論</p> <p>第3回 基本的人権と社会福祉</p> <p>第4回 社会権と社会福祉</p> <p>第5回 高齢者保護と悪質商法①／消費者契約法, 特定商取引法概論</p> <p>第6回 高齢者と悪質商法②／特定商取引法各論</p> <p>第7回 高齢者の権利擁護①／成年後見制度概論</p> <p>第8回 高齢者の権利擁護②／成年後見制度の実務</p> <p>第9回 日常生活自立支援事業と法律の関わり</p> <p>第10回 福祉と行政(法)の関わり</p> <p>第11回 相続と遺言</p> <p>第12回 福祉と労働</p> <p>第13回 福祉現場における事故と法的責任①／損害賠償制度概論</p> <p>第14回 福祉現場における事故と法的責任②／損害賠償制度各論</p> <p>第15回 まとめ</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>書籍名「権利擁護と成年後見制度」          著者名 社会福祉士養成講座編集委員会          出版社 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>予習・復習の内容          予習 授業前に指摘した教科書を熟読すること。          復習 授業で配布したプリント、教科書を活用して授業ノートを整理すること。          展開 新聞などで報道される福祉に関する問題について、法的視点から考察する。          成績評価          評価の基準 中間テスト(50%)、期末テスト(50%)          評価の方法 中間テスト(50%)、期末テスト(50%)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 児童福祉	授業の種類 ( {講義} ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者 三田 健
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 児童権利条約の精神に則り改正された児童福祉法1条を中心に、子ども家庭福祉の意義・理念や法体系、制度について理解を深める。			
【授業全体の内容の概要】 児童福祉法、障害者総合支援法、子ども・子育て新制度における児童への福祉施策、(国家試験対策)児童の人権、児童虐待、子育て支援などを中心に理解出来るように講義を進め、日々報道される児童問題についても、とりあげていく。又、事例研究などを通して、介護現場において即戦力になれるようにソーシャルワーク(社会福祉援助技術)を高めていく。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ○児童の健全育成は、次世代に向けて重要なことである事や、「子どもの権利の重要性」「児童の最善の利益について」理解する。 ○専門的に子ども家庭福祉を学ぶというより、生活の中で、又は介護従事者として、身近に児童をとらえられるようになる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1 講義ガイダンス・児童福祉法制定の意義と子どもの権利保障について 2 児童への福祉施策について(児童福祉法・障害者総合支援法・子ども子育て新制度について) 3 12種区分の児童福祉施設について 4 ひとり親家庭と母子保健の福祉施策について 5 少年犯罪と少年法について 6 児童福祉の実施機関について 7 要保護児童福祉施策と児童虐待について その1 8 要保護児童福祉施策と児童虐待について その2 9 障害をもつ子どもの福祉施策について 10 児童福祉関係施策を中心に国家試験対策 11 児童福祉関係施策を中心に国家試験対策 12 社会福祉援助技術と事例検討 13 試験対策講義 14 認知症・発達障害者支援法に示されている障害について 15 試験実施			
【使用テキスト・参考文献】 授業のたびに、講師がレジユメを準備する		【単位認定の方法及び基準】 試験成績及び受講意欲、出席要件などを加味し、総合評価する。児童福祉関係施策を中心に国家試験対策としてミニ試験を実施する。	



## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 手話		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 藤田 公子	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 90分 単位	配当学年・時期 2年 後期		必修・ <u>選択</u>	
<p>[ 授業のねらい・目的 ]</p> <p>基本的な手話を覚え、手話でコミュニケーションができるようになるとともに聴覚障害者について理解する。</p> <p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>手話の実技を中心に、聴覚障害者や手話の基礎知識について講義をおこなう。</p> <p>[ 授業修了時の達成課題（到達目標） ]</p> <p>聴覚障害者について理解し、学習した手話を使ってコミュニケーションできる。</p>					
<p>[ 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 ]</p> <p>コマ数</p> <p>1 講義 「手話の基礎知識」手話の成り立ち 演習 手話や指文字を使って自己紹介</p> <p>2 演習 指文字になれよう しりとり あいさつの手話表現 家族に関する手話表現</p> <p>3 演習 住んでいる場所はどこ あなたの家族は何人、誰、いつなどの疑問詞</p> <p>4 講義 高齢者介護のための聞こえや聴覚障害の基礎知識 演習 聞こえについて 補聴器の特徴 補聴器体験</p> <p>5 演習 趣味やスポーツ、仕事に関する手話表現 食べ物、飲み物の手話表現 季節や色に関する手話表現</p> <p>6 演習 尋ね合ってみよう（疑問詞を使ってこれまで覚えた手話で答える）</p> <p>7 演習 尋ね合ってみよう（疑問詞に対して自己紹介できるように答える）</p> <p>8 実技テスト 自己紹介 「手話の歌」都道府県の手話表現</p> <p>9 演習 時間や感情を表す手話表現</p> <p>10 演習 対で覚える手話表現（様子や動作を表す手話表現）</p> <p>11 演習 例文で練習 様子や動作を表す手話表現</p> <p>12 演習 例文で練習 様子や動作を表す手話表現</p> <p>13 演習 病院や看護で使う手話表現 日常会話にチャレンジ</p> <p>14 テスト</p> <p>15 講義 振り返り DVD 視聴 災害と聴覚障害者</p>					
使用テキスト・参考文献 「すぐ使える手話」深海久美子監修 主婦と生活			[ 単位認定の方法及び基準 ] 試験成績・実技・課題及び意欲、出席要件 等を加味し、総合評価する (基準：60点以上を合格)		

# 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)  <b style="font-size: 1.2em;">家 庭</b>	授業の種類  ( <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">講義</span> ・ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )		授業担当者  小泉密江・横田啓子
授業の回数  15	時間数 (単位数)  30 (2)	配当学年・時期  2年 後期	必修・選択  選 択
[授業の目的・ねらい] 家族が共に生きる生活の場の形成を通じて、望ましい生き方や生活の価値など、食生活・衣生活の知識や技術を通し学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 家庭の機能や家庭生活の現代的課題を知り、食生活と健康、食事計画、高齢者・障害者の食生活、被服の機能、選択と管理、介護と衣生活などについて取り上げる。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 食生活や衣生活の知識を深め、演習を通し健康に生活するための技術の習得、その重要性を理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 家庭生活の営み・・・食生活の基本知識 ① ・・・・食生活と健康、健康と栄養、食物摂取と生体リズム	小 泉		
2 家庭生活の営み・・・食生活の基本知識 ② ・・・・栄養素の種類と働き、栄養所要量から食事摂取基準へ	小 泉		
3 家庭生活の営み・・・食生活の基本知識 ③ ・・・・食事計画、摂取する食品の種類と量	小 泉		
4 家庭生活の営み・・・食生活の基本知識 ④ ・・・・食品と調理、食品の安全性	小 泉		
5 家事支援における介護技術 (調理実習) 高齢者・障害者の食生活の献立と調理 ①	小 泉		
6 家事支援における介護技術 (調理実習) 高齢者・障害者の食生活の献立と調理 ②	小 泉		
7 家事支援における介護技術 (調理実習) 高齢者・障害者の食生活の献立と調理 ③ <減塩食・カロリー制限食>	小 泉		
8 家事支援における介護技術 (調理実習) 高齢者・障害者の食生活の献立と調理 ④ <減塩食・カロリー制限食>	小 泉		
9 家庭生活の営み・・・衣服生活の基本知識 ① ・・・・	横 田		
10 家庭生活の営み・・・衣服生活の基本知識 ② ・・・・被服の役割と機能	横 田		
11 家庭生活の営み・・・衣服生活の基本知識 ③ ・・・・被服の素材、繊維の性能	横 田		
12 家庭生活の営み・・・衣服生活の基本知識 ④ ・・・・被服と皮膚衛生、被服の選択、管理	横 田		
13 家庭生活の営み・・・衣服生活の基本知識 ⑤ ・・・・高齢者・障害者の衣生活、着脱動作適応性	横 田		
14 家事支援における介護技術 (裁縫) ①	横 田		
15 家事支援における介護技術 (裁縫) ②	横 田		
※ 最後筆記試験を行う			
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術 I」中央法規 テキスト 資料を配布する。		[単位認定の方法及び基準] 試験の成績・実技・課題及び意欲、出席要件等を 加味し、 総合評価する。(基準:60点以上を合格)	